

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000926		
法人名	株式会社 ナショナルスタッフセンター		
事業所名	グループホーム 松風		
所在地	北海道北見市とん田東町450番地7		
自己評価作成日	令和5年2月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を基本として、スタッフ一同入居者様の援助に取り組んでいます。入居者様の気持ちに寄り添った援助を心掛けており、安心して暮らして頂けるようなケアが出来る様、努めております。行事を行なった際の写真や、その時の季節に合ったものを飾り、コロナ禍で外出機会が少ない中でも、季節を感じて頂ける様な空間を提供出来るように取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhlgw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0175000926-00&amp;Se">mhlgw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0175000926-00&amp;Se</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年3月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム松風」を運営している(株)ナショナルスタッフセンターは、札幌市や旭川市でデイサービスや小規模多機能型居宅介護事業所を経営しており、当事業所は2ユニットで運営され、高齢者共同住宅が併設されています。高齢者住宅には管理栄養士が在籍しメニュー作成を担当して、理念に掲げられた『四季のある、自由な生活、快適に、やさしい介護、おいしい食事』の一翼を担っています。施設長は職員会議時は基より折に触れて理念に沿った介護の提供を実践する為には何が必要か、何が大切かを職員に問いかけ、特に言葉使いが不適切になっていないかを指導しています。更に、スピーチロックを含む身体拘束に対し、職員一人ひとりが確認テストを行い、自らの行動の振り返り、理解を深め利用者本位の介護の提供に取り組んでいます。運営会社では資格取得の費用を負担し、職員の向上心に繋がっています。昨今の新型コロナウイルスの流行で外出もままならない中、利用者のストレスに配慮し、感染に注意を払いながら菊祭り見学に出掛けたり室内で体操をして気分転換を図っています。家族とは連絡をこまめに取りながら、毎月のカンファレンス、職員によるモニタリング、介護記録用紙に介護計画を記載し職員の理解を促す等基本に沿い、利用者、家族との信頼関係を模索しながら利用者の穏やかな暮らしを支えること目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のサービス担当者会議・合同会議を実施する際、理念に沿った援助方法や実施内容について確認し支援している。	ケアの理念はパンフレットに掲載し周知している他、各ユニットに掲示し会議の時には施設長から理念に沿った実践について、特に接遇についての話があり、常に職員の意識の基に置き実践できるように取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの状況が落ち着かない中でも、再開できるように準備している。	グループホームが立地する地区には町内会がなく、隣地の町内会に協力をお願いしていますが、保育園やボランティアとの交流がありました。現在は新型コロナウイルス感染症の影響で控えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスによるクラスター発生により、実習生等の受け入れが出来ない状況ではありましたが、今後に向け受け入れ態勢を整えられるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で、開催が左右される状況ではあったが、徐々に落ち着いてきており、開催に努めている。	運営推進会議は近隣町内会役員、市担当者等の出席を得て奇数月に開催していますが今年度はコロナ禍で開催できないときもあり文章で知らせています。	運営推進会議の内容等、総ての利用者家族との情報共有し、運営に活用していく工夫を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課・保護課の担当者に、ご家族からの要望・疑問については相談をし指示頂き、対応している。	市担当者とは報告書提出や疑問についての質問で訪問しています。新型コロナウイルス感染時には保健所の指導や助言、市役所の協力を得ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとしている。又、身体拘束については定期的に拘束委員会を設けて勉強・理解に努めている。	身体拘束廃止に向けては管理者が担当して委員会を設けており、年4回日常の介護や業務中の言動について検討し更に確認テストを行いながら研修に取り組んでおり、身体拘束の無い介護を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同会議・カンファレンスなどで、現状の見直し、状況に沿った支援方法かについて判断し、自ら・他者から確認・理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、ご家族からの相談等は無いが、要望に備えて学習する機会を設け、支援出来るように準備に務めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時・契約内容変更の際には、変更前と変更後の内容を提示し、管理者より説明を行い、理解・ご納得の上、署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご来訪時、ご家族より御意見・御要望等の提示を頂いた際には、管理者等に報告、対応策を検討しスタッフ間でも共有できるように努めている。	利用者、家族の意見や要望は会話の中で把握するようにしていますが、コロナ禍の現在は家族の面会は制限しており電話で報告をする折の様子を知らせ、要望を把握しています。お便りは写真を主に掲載しています。	職員間での情報共有に努め、利用者家族にグループホームの日常の様子や職員状況についての情報提供の工夫を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議・各階カンファレンスにて、都度、意見・要望等は提案して貰い対応するように努めている。	職員の意見や提案は業務の中や毎月の会議の中で話す機会を設けており運営に反映させています。資格取得への補助制度もあり労働環境整備に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務上必要な資格等、スタッフ各自がスキルアップに要する費用など補助する体制を取っており、向上心を持てる職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響により、研修への参加が難しい状況ではありますが、身体拘束・虐待行為等についてなど内部研修にて実施、知識・理解を深めるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響にて、以前の様な交流等が限られるようになり、現在は、メール・電話にて状況の把握に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居したばかりの頃は施設に慣れて頂く為の援助を中心に、援助を通じてアセスメント・モニタリングを行い、入居者様の要望等聞き取りケアプラン作成し援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や意見など傾聴し、不安や心配が軽減するようにケアプランを作成している。初回のプランについては行動を観察し1ヶ月で見直しをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の実情、要望を汲み取り必要とする支援を見極め、対応できるよう努めている。訪問看護師、往診、訪問理容、栄養士など入居者にかかわるサービス内容も含め連携している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で、ご本人の希望を考慮して、お互い支えあえる関係を構築している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通信や写真で生活の様子を伝え、受診時やケアプラン説明時、身体症状などお伝えしている。ご家族の協力が必要な際は関わって頂けるようお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症対策のため面会制限中、居室では会えない状況だったが、手紙や写真のやり取りをしている方もいる。また、電話をしたいと申し出があった場合は対応している。	コロナ禍の現在は利用者の馴染みの場所への訪問や外出は制限しています。室内で趣味の塗り絵等を継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士自然な関わりが持てるよう働きかけている。茶の間では入居者同士で楽しくお話しされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、ご家族にお会いした際はあいさつし、ご本人の今の状況を確認している。退所された後、使用しなくなったオムツ等を届けてくださった家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日常生活における希望、意向の把握に努めており、月1の会議で情報共有している。	利用者のこれからの希望や暮らし方の希望は日常の会話の中で把握するように努めています。終末期の在り方については家族の話を伺い希望に沿える様に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握に努め個別の基本情報、アセスメント表を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ファイルへの日々の日常生活の記録をし、心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、家族、訪問看護師、職員の意見、アイデアを反映し現状に合ったケアプラン作りをしている。	介護計画は基本的に利用者、家族の要望を踏まえてカンファレンス、ケアマネのモニタリングを経て6か月毎に見直しを行っています。生活記録にはケアプランの目標が記載しており全職員が同じサービス提供が出来る様に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルへの記録、連絡ノートへの記録し、情報共有を図り月1回会議を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて、ご家族に協力を求め、サービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の状況に合わせて心豊かに暮らしていけるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用したり、ご家族対応で受診したりと支援している。	受診は利用者のこれまでのかかりつけ医を家族の対応で行っています。その際懸案事項をメモで渡して適切な医療が受けられるように支援しています。更に、訪問看護ステーションとの契約で毎週1回看護師の訪問があり健康管理を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問看護師来所時に一週間の変化を記入して渡しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設での生活状況を記載した状況提供書などを書類にして渡しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人とご家族の希望に添えるような体制づくりに努め、終末期に向けた対応に備えている。	重度化した場合や終末期については重度化対応指針、看取りに関する指針、看取りに関する支援と対応方法で契約時及び時期が来た時に説明して同意を得て意向に沿った取り組みを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成、急変しやすい入居者がいるときはシミュレーションし対応、パルスオキシメーターを使用し参考にしており対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと年2回防災訓練を行っている。職員、利用者様と訓練を行っている。	火災避難訓練は年2回、消防署の指導、助言を得て夜間想定で併設の事業所と合同で行っています。今年度は一度は机上訓練で取り組んでおり、地域住民には案内をして周知しています。また、その他の災害については発電機、石油ストーブ等を備えています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付け、指示的な言葉にならないようにスタッフ同士でも気をつけている。	「自分が嫌なことは決して利用者にはしない」施設長はこの事を新人採用時や毎月の会議の時に特に徹底しており、人格を尊重し、誇りを損ねない支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択ができる声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	茶の間で過ごしたい、テレビを見たいなど、本人の希望に沿って援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、同じ服にならないようにし、気温に合った服を用意している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一口大やミキサー食、水分にはトロミを使用したりと状況を見て提供している。	献立、食材は、併設の有料ホームの管理栄養士が作成し、用意をお願いしています。調理は職員が行い、利用者一人ひとりの状態に合わせた形状で作っています。行事、誕生日は好みの特別食を用意し楽しい食事になる様に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立をスタッフが調理している。水分量、摂取量を記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面の声掛けや介助時には口腔スポンジを使用し清潔保持をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を見て声掛けにてトイレ誘導を行い失禁を少なくし、トイレの訴え時は間隔が短くても誘導している。	一人ひとりの排泄記録をつけ、行動パターンや間隔、習慣を把握してさり気無く羞恥心が起きない様な声掛け誘導を行っています。夜間ポータブルトイレ使用者もおりその人に合った支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を見て下剤の調整を行ったり、冷たい飲み物を提供したりしながら工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ご本人の希望や体調によっては日にちをずらしたりしている。	入浴は週2回を基本としその日の状態や、状況を鑑みて支援しています。特に嫌がる利用者は無く、入浴中職員との会話を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の希望に合わせて居室や茶の間にて過ごして頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個人ファイルに保管し、受診後の変更やDrからの指示等、受診経過記録に記入して職員一同周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いして頂ける入居者様には、その日の体調に配慮しながらお願いしている。また、居室で好きな音楽を聴いたりされておられる入居者様もいらっしゃる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて行事や外出、外食を支援しているが、コロナウイルスの為、外出、外食は難しい為、外注や施設内での食事会の支援をしている。	外出はコロナ禍でほとんど行われていませんが、今年度は介護タクシーで菊祭りに出かけておりその他は、定期受診で家族と医療機関への外出受診に外出しています。利用者の気分転換の為、グループホーム内での行事や食事会を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、金銭管理をご家族に協力をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の内容を確認してスタッフがかけて、その後、ご本人へ代わり話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が分かりやすく表示してあり。移動にもある程度のスペースは確保されている。また、週2回不快な気持ちにならないよう掃除にも配慮している。	リビングには空気清浄機を設置し温湿度に配慮して居心地の良い空間を提供する様に努めています。季節の飾りつけや写真を飾って楽しい暮らしの実現に取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様、個人に合った状況を提供して、ご本人のペースで生活して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では使い慣れたものや好みのものを置いたりして工夫をしている。	居室には使い慣れた家具や仏壇、テレビ等、それぞれの好みの物を配置し、家族の写真を飾る等、安心して過ごせる様に工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	ご自身で出来る事をして頂き、自立した生活を送ってもらっている。		